

平成27年度
文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」
事業報告書



国立大学法人 琉球大学
ジェンダー協働推進室

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL098-895-8675 FAX098-895-8760
Email gender@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
<http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/>

平成28年6月発行



この印刷物は環境にやさしいページ印刷(VEGETABLE)を使用しております。
古紙配合率100%の再生紙を使用しています。



国立大学法人 琉球大学
ジェンダー協働推進室
University of the Ryukyus
Gender Equality Promotion Office

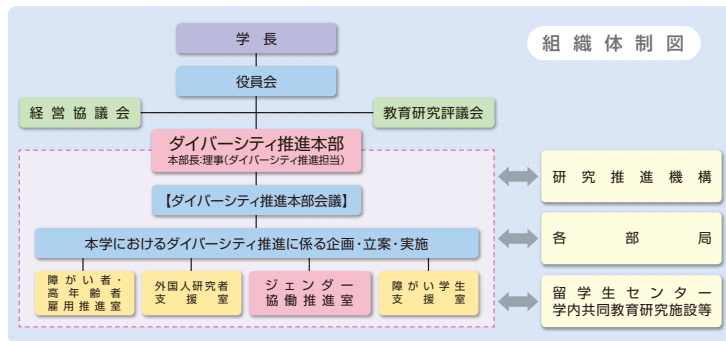
室長あいさつ



ジェンダー協働推進室長
喜納 育江

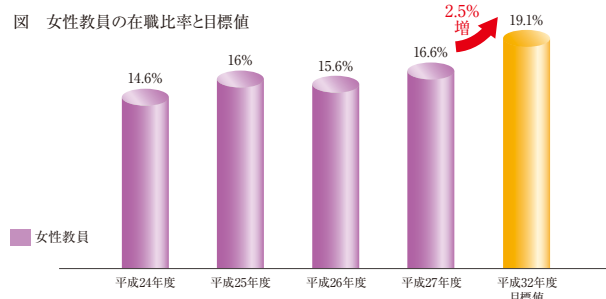
本学は、平成24年から26年度までの文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に続き、平成27年度より同じく文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」に採択されました。本報告書は、同事業の初年度である平成27年度の活動に関するものです。本学は、平成26年度までの「女性研究者研究活動支援事業」を通して、一層の女性研究者支援推進の必要性和同時に、多様性の時代に鑑みた大学の人材マネジメントを目指すことが大学の発展に不可欠であることを認識しました。その結果、平成27年度より学長直轄の「ダイバーシティ推進体制」を発足させ、第3次中期目標中期計画でも、女性および外国人研究者等の能力を最大に活かせる研究環境の実現を掲げています。「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業への採択は、本学の女性研究者の一層の活躍を促し、本学の人材多様化の取り組みを推進するうえで、時宜を得た取り組みに着手することを可能にしてくれました。

また、「ダイバーシティ推進体制」のもと、本学は、「男女共同参画室」と「うない研究者支援センター」の機能を統合し、新たに「ジェンダー協働推進室」を設置しました。本推進室のミッションは、各部署等と連携しながら、これまでの女性研究者支援をさらに強化するとともに、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」を軸とした各種事業を確実に遂行することです。本年度は、「研究環境の整備」、「研究力向上」、「上位職への積極的登用」、「次世代育成」、「地域連携」などにおいて、これまでの取組みを継続しつつ、育児サポートサービスの開始、男女共同参画担当理事を中心とした「女性研究者確保に関する検討委員会」による女性研究者の在職率アップへ向けた検討、そして、沖縄県内産学官女性コンソーシアムの開催など、新たな取組みにより、活動のさらなる充実を図りました。「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業の重点目標である「女性研究者の在職率アップ」および「上位職への女性の登用」の実現に本推進室が果たすべき役割をしっかりと理解し、本年度の活動を来年度へとつなげていきたいと思っております。



女性教員の比率増を目指します。

平成32年度末までに女性教員の在職比率を19.1%に上昇させるため、新規採用増を目指します。



活動報告

2015年(平成27年)

- 4/1 女性研究者採用に対するインセンティブ経費の配分を実施
- 4/13 平成27年度前期共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」開講
- 6/22 第1回キャリアデザインフォーラム「<笑い>を仕事とするか?生き方とするか?」開催 (講師:知念だしんいちろう氏 お笑い芸人)
- 6/23 「慰霊の日」託児ルーム開設
- 6/29 第2回キャリアデザインフォーラム「消防士×女性医師 ～専門職にみる家事育児と仕事のバランス～」開催 (講師:平野聡太郎氏 元浦添市消防士、あき内科クリニック事務長)
- 7/6 第3回キャリアデザインフォーラム「大学および地域コミュニティにおける多様性とリーダーシップ」開催 (講師:Amy Sueyoshi氏 Associate Dean, College of Ethnic Studies, San Francisco State University)
- 7/13 第4回キャリアデザインフォーラム「地域活性化における女性の役割 夢へのプロセス～3つのチャ・チャ・チャ～」開催 (講師:豊川明佳氏 有限会社インターリンク沖縄代表取締役)
- 7/18 オープンキャンパスにおいて女性研究者による「理系女子のための自然科学分野紹介」を実施
- 8/3～8/7 「夏休み学童保育2015」実施
- 8/20 サイエンスプロジェクトfor琉球ガールズ(沖縄科学技術大学院大学との共催 於:宮古島)(平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」)
- 9/11 「第7回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム in 鹿児島」共催
- 10/1 育児サポート・サービス利用料補助事業開始
- 11/1 研究活動等支援員制度開始
- 11/2 英文校閲費用助成事業、国際学会派遣費用助成事業実施
- 12/1 育児サポート・サービス利用料補助事業追加支援
- 12/14 女性研究者確保に関する検討委員会より、女性研究者確保に関する中・長期的な方策について学長に答申

2016年(平成28年)

- 1/18～3/20 病児・病後児保育利用料補助事業開始
- 1/22 沖縄県における女性産学官コンソーシアムの構築に向けた意見交換会開催(平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」)
- 2/6 第1回スキルアップセミナー「英語論文ライティング講座 アドバンス編」開催
- 2/9 部局長訪問(医学部)。女性研究者の採用、各種支援制度等の紹介および利用促進等について、ダイバーシティ推進担当理事、ジェンダー協働推進室長およびマネージャーが学部長と面談
- 2/12 部局長訪問(農学部)
- 2/18 部局長訪問(理学部)
- 2/23 部局長訪問(工学部)
- 3/6 第2回スキルアップセミナー「英語論文ライティング講座 ディスカッション特訓編」開催
- 3/10 全学教職員対象「第1回意識改革セミナー」開催
- 3/16 全学女性研究者のライフイベントに関する現状調査
- 3/21～22 英語による「女性研究者のためのリーダーシップ研修」開催
- 3/25～26 サイエンスプロジェクトfor琉球ガールズ(沖縄科学技術大学院大学との共催 於:OIST、与那フィールド)
- 3/31 ニュースレター「うない通信 Vol.9」発行

ダイバーシティ研究環境整備のための取組

研究活動等支援員制度

出産・育児または介護等に携わる研究者に対し、研究時間を確保し研究活動の活性化を促進するために、研究活動等支援員を配置する「研究活動等支援員制度」を実施しました。

新たに、教育活動及び研究活動を支援する「教育・研究支援」と研究活動のみを支援する「研究支援」の2種類の支援を設け、「教育・研究支援」ではライフイベントや学内委員会委員、社会貢献・地域貢献等に携わる女性研究者および下記に該当する男性研究者を支援の対象としました。

また、本制度を利用する教員は、研究支援を行う研究活動等支援員に対し、ワーク・ライフ・バランスを踏まえた自らの研究やキャリア形成を考える手助けとなるよう監督・指導を行い、次世代の研究者育成に努めています。

申請対象者

- 本学に在職する専任教員、特命教員、特任教員のうち次のいずれかに該当する者。
ただし、本人又は配偶者(※)が産前産後休暇中、育児休業又は介護休業中の場合は除きます。
※ 届出をしないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。

【教育・研究支援】

- ① 女性研究者で、諸事情(例:ライフイベントや学内委員会委員等、社会貢献・地域貢献等)により研究時間を十分に確保することが困難な方
- ② 配偶者が常勤の研究者又は指導的地位(役員や管理職等)である男性研究者のうち、次のアからエのいずれかに該当し、研究時間を十分に確保することが困難である方
 - ア 配偶者が妊娠中である方
 - イ 小学校6年生までの子どもを養育している方
 - ウ 要支援または要介護の認定を受けている二親等以内の家族の介護がある方
 - エ その他、上記に準ずる理由がある方(例:難病、障がい者等の家族の介護がある等)
- ③ 独身の男性研究者で、上記②のイからエのいずれかに該当し、研究時間を十分に確保することが困難である方

【研究支援】

- ① 女性研究者または配偶者が常勤の研究者である男性研究者のうち、次のアからエのいずれかに該当し、研究時間を十分に確保することが困難である方
 - ア 妊娠中の者、または配偶者が妊娠中である方
 - イ 小学校6年生までの子どもを養育している方
 - ウ 要支援または要介護の認定を受けている二親等以内の家族の介護がある方
 - エ その他、上記に準ずる理由がある方(例えば、難病、障がい者等の家族の介護がある等)

表 研究活動等支援員制度 利用者の内訳(平成24年度～平成27年度) (人数)

性別	平成24年度		平成25年度(第1期)		平成25年度(第2期)		平成26年度(第1期)		平成27年度	
	育児・妊娠	介護・看護	育児・妊娠	介護・看護	育児・妊娠	介護・看護	育児・妊娠	介護・看護	育児・妊娠	介護・看護
男性	4	0	5	0	5	0	5	0	1	0
女性	11	4	13	5	15	9	11	6	11	3
小計	15	4	18	5	20	9	16	6	12	3
総計	19名		23名		29名		22名		15名	

研究活動等支援員制度を利用して 法文学部国際言語文化学科 教授 東矢 光代

私の研究分野は英語教育・応用言語学で、中心テーマは、「よりうまくいく英語学習法は何か」です。特にリスニングで、音声教材にファイターをかけ、英語に特徴的だと言われる「高周波音声」を聞くことの効果を見てきました。また、iPadアプリの収集も複数年かけて継続しており、それをデータベース化して、異なる年代・興味を持つ学習者に活用してもらうことを最終目的としつつ、効果的なアプリについて共同で論文にまとめ、現場教員へのセミナーの中でも紹介してきました。制度利用で心がけていることは、支援員である大学院生とのWin-Winの関係構築です。研究で用いる教材作成やアプリの知識は、即支援員自身の研究にも役立ちますし、先行研究の文献検索は、私が論文執筆に必要な基礎資料収集の時間を大幅に短縮してくれると同時に、彼らのスキルアップにつながっています。学内の要職と研究・教育の両立も、この支援があっこそぞだと思います。

育児サポート・サービス利用料補助事業

本学の教職員の仕事と家庭生活の両立を支援するため、育児支援におけるサポート・サービスを利用する場合の利用料の一部を補助し、6名(女性教員2名、男性教員2名、職員2名)の利用がありました。

利用対象者

本学に在職する職員で、配偶者を有する場合は原則として配偶者が就労している場合のほか、配偶者の病氣入院等により、育児サポート・サービスを利用しなければ就労することが困難であると認められる者となります。(非常勤職員の場合は社会保険加入者に限る。)

ただし、補助事業の対象は要勤務日における利用に限り、産前産後休暇や育児休業等の休暇取得者や休業中の者は除きます。また、補助対象可能な時間帯については、要勤務日における午前7時～午後10時までとし、補助対象外となる時間帯及び宿泊の利用については、自己負担となります。

対象となる乳幼児等

- (1) 0歳から小学校3年生までの乳幼児・児童
- (2) 身体障がい者手帳又は療育手帳の交付を受けている満18歳に達するまでの子

補助の対象となるサポート・サービス内容

- (1) 保育所、幼稚園、小学校及び放課後児童クラブ等(以下「保育施設等」という。)の保育開始前や、終了後の子どもの預かり
- (2) 保育施設等までの送迎
- (3) 児童が通う学校が休みの時、保育施設等による休みの子どもの預かり
- (4) 病児・病後児の預かり

※ 同一家庭以外の複数の乳幼児等を同時に保育する場合は補助対象外とします。

病児・病後児保育利用料補助事業

病時・病後児保育利用料補助事業を新たに制度化し、実施しました。これは、本学職員の就業及び家庭生活の両立を支援することを目的に、本学に在職する職員が育児支援における病児・病後児保育を利用する場合の利用料の一部を補助するものです。利用できる病児・病後児保育は別に定める病児・病後児保育事業を実施している病院等に限りです。

補助事業利用登録は教員4名、職員7名。この内、1名の教員の利用がありました。

利用対象者

本学に在職する職員で、配偶者を有する場合は原則として配偶者が就労している場合のほか、特段の事情(配偶者の病氣入院等)により、病児・病後児保育を利用しなければ就労することが困難であると認められる者となります。(非常勤職員の場合は社会保険加入者に限る。)

対象となる乳幼児・児童等

- (1) 0歳から小学校6年生までの乳幼児・児童
 - (2) 身体障がい者手帳又は療育手帳の交付を受けている満18歳に達するまでの子
- ※ ただし、病児・病後児保育事業を実施している各病院等の規定に準じます。

くるみんマーク(次世代認定マーク)取得

琉球大学は、平成27年11月9日付けで、沖縄労働局長から次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主(子育てサポート企業)」と認定され、「くるみんマーク(次世代認定マーク)」を取得しました。



女性研究者の研究力向上のための取組

スキルアップセミナー

教職員、大学院生の英語による研究成果発信の強化と能力向上を目的としたスキルアップセミナー「英語論文ライティング講座」を計2回開催しました。法文学部、教育学部、理学部、医学部、農学部等文系系関わらず、延べ27名が参加しました。

第1回スキルアップセミナー

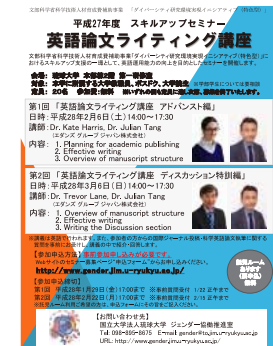
英語論文ライティング講座
アドバンス編

日時：平成28年2月6日（土）
講師：Dr. Kate Harris, Dr. Julian Tang
(エダズ グループ ジャパン株式会社)

第2回スキルアップセミナー

英語論文ライティング講座
ディスカッション特訓編

日時：平成28年3月6日（日）
講師：Dr. Trevor Lane, Dr. Julian Tang
(エダズ グループ ジャパン株式会社)



英文校閲費用助成・国際学会派遣費用助成事業

女性研究者のキャリアアップを推進することを目的に、学術雑誌に論文を投稿する際の英文校閲に係る費用および国際学会等で研究成果発表を行うために必要な経費を助成しました。

【平成27年度採択実績】

- 英文校閲費用助成 (上限5万円) 4名
- 国際学会派遣費用助成 (上限15万円) 2名

夏休み学童保育2015の実施

平成27年8月3日(月)から8月7日(金)の5日間、教職員や学生の児童(小学生)を対象に夏休み学童保育を実施し、26名の児童(保護者19名)を受け入れました。

学内の学生・教職員からご協力をいただき、サンゴ礁の生き物観察会や農学部放牧地での与那国馬の観察、風樹館でのスケッチ大会などの体験プログラムが行われました。

実施後の保護者アンケートでは、「学内なので安心して預けることができた」「子どもが毎日楽しく過ごせた」「積極性が出てきた」といった感想や、「期間を延長してほしい」「他の学童との交流の機会を設けて欲しい」といった要望をいただきました。

琉球大学では今後も継続して実施していきたいと考えています。



慰霊の日託児ルーム開設

本学の教職員の仕事と生活の両立支援として、「慰霊の日(6月23日)」に伴い、学校が休校中の子どもたちをお預かりする一時託児ルームを設置しました。

11名の教職員が利用し、児童12名を受け入れました。



平成27年度インセンティブ経費

公募により女性研究者を採用した部局等にインセンティブ経費を配分し、教育や研究活動の環境整備等に使用されました。

【インセンティブ経費を配分された部局(採用順)】

- ・ 教育学部(平成27年4月1日)
- ・ 機器分析支援センター(平成27年4月1日)
- ・ 法文学部(平成27年5月1日)
- ・ 法務研究科(平成27年10月1日)

インセンティブ経費を活用して法文学部・共通教育棟に女性専用休憩室が設置されました。



女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組

意識啓発セミナーの開催

大学におけるダイバーシティの推進と女性研究者支援の必要性に資する意識啓発事業として意識啓発セミナーを開催しました。本セミナーは、平成26年度まで管理職を対象とした「トップセミナー」として実施していましたが、平成27年度は管理職を含む全ての教職員等に対象を拡大し、全学から約40名の教職員が参加しました。

■ 第1回意識啓発セミナー

日 時：平成28年3月10日(木)
講 師：筑波大学ビジネスサイエンス系教授、
お茶の水女子大学監事 吉武博通氏
演 題：「大学改革と男女共同参画の推進」



女性研究者のためのリーダーシップ研修

平成28年3月21日～22日、本学女性教員を対象とした「英語による女性研究者のためのリーダーシップ研修」を開催しました。研修では、カリフォルニア大学バークレー校から講師陣を招聘し、女性リーダーに求められる役割や必要なスキル等について英語で議論する機会を提供しました。2日間のプログラムに、法文学部、教育学部、医学部保健学科、農学部等から延べ14名が参加しました。

■ 第1回女性研究者のためのリーダーシップ研修

日 時：平成28年3月21日(月)～22日(火)
講 師：Dr. Linda Von Hoene, Dir. Sabrina Soracco (University of California, Berkeley)
演 題：「女性研究者のための英語によるリーダーシップ研修」



部局長訪問

ダイバーシティ推進担当理事、ジェンダー協働推進室長及びジェンダー協働推進室メンバーが、自然科学系の部局長(学部長等)を訪問しました。過去の本学女性教員採用比率や女性研究者比率等について分析・データ化した情報を元に説明を行うとともに、本事業の計画及び女性研究者支援策について説明を行い、本学が直面している女性研究者支援に関する課題について認識の共有を図りました。

- 医学部 平成28年2月9日(火)
- 農学部 平成28年2月12日(金)
- 理学部 平成28年2月18日(木)
- 工学部 平成28年2月23日(火)



視野拡大、地域・産官学との連携

キャリアデザインフォーラム

「ちゅら島の未来を創る知の津梁(かけ橋)事業」(COC地(知)の拠点整備事業)の一環として、沖縄県内の行政や地元企業で活躍する女性リーダーをお招きし、「多様な才能を活かせる社会をめざして～「男らしさ」「女らしさ」にこだわらない生き方を学ぼう」をテーマに「キャリアデザインフォーラム2015」を開催しました。

■ 〈笑い〉を仕事とするか? 生き方とするか?

日 時：平成27年6月22日(月)
講 師：知念 臣一郎氏(お笑い芸人・知念だんしんいちろう)

■ 消防士×女性医師 ～専門職にみる家事育児と仕事のバランス～

日 時：平成27年6月29日(月)
講 師：平野 聡太郎氏(元浦添市消防署消防士・あき内科クリニック事務長)

■ 大学および地域コミュニティにおける多様性とリーダーシップ

日 時：平成27年7月6日(月)
講 師：Amy Sueyoshi氏 (Associate Dean, College of Ethnic Studies, San Francisco State University)

■ 地域活性化における女性の役割 夢へのプロセス～3つのチャ・チャ・チャ～

日 時：平成27年7月13日(月)
講 師：豊川 明佳氏(有限会社 インターリンク沖縄 代表取締役)



共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」

平成27年度前期共通教育科目「キャリアデザインとジェンダー」を開講しました。本学の様々な分野の女性教員や地域で活躍する多彩な方々によるオムニバス形式の講義で、65名の学生が受講しました。

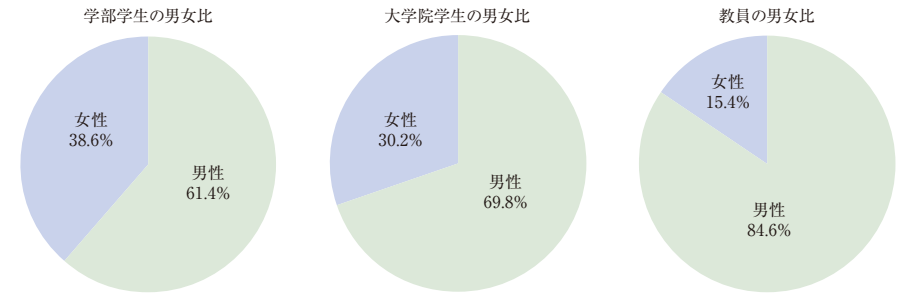
第1回	4月13日	喜納 育江(国際沖縄研究所 教授)	序論 キャリアデザインとジェンダーの関係
第2回	4月20日	矢野 恵美(法科大学院 准教授)	女性の社会進出とハラスメント
第3回	4月27日	藤田 陽子(国際沖縄研究所 教授)	キャリアを決めるタイミング
第4回	5月7日	野入 直美(法文学部 准教授)	職業としての研究、ジェンダーとライフサイクル
第5回	5月11日	加瀬 保子(法文学部 准教授)	自分が主人公の人生を歩む
第6回	5月18日	漢那 洋子(理学部 准教授)	「ジェンダーと自然科学 - 科学研究者としてのキャリアを現代科学論の観点から考える -」
第7回	5月25日	伊澤 雅子(理学部 教授)	リケジョ・りけじょ 理系女子?
第8回	6月1日	小西 照子(農学部 准教授)	植物が世界を救う
第9回	6月8日	高橋 美奈子(教育学部 准教授)	仕事と結婚・出産・育児のワーク・ライフ・バランス
第10回	6月15日	佐々木 香代子(留学生センター 准教授)	小さなことの積み重ねが人生を決める
第11回	6月22日	知念 臣一郎(お笑い芸人・知念だんしんいちろう)	〈笑い〉を仕事とするか? 生き方とするか?
第12回	6月29日	平野 聡太郎(元浦添市消防署消防士・あき内科クリニック事務長)	消防士×女性医師～専門職にみる家事育児と仕事のバランス
第13回	7月6日	Amy Sueyoshi (Associate Dean, College of Ethnic Studies, San Francisco State University)	大学および地域コミュニティにおける多様性とリーダーシップ
第14回	7月13日	豊川 明佳(有限会社 インターリンク沖縄 代表取締役)	地域活性化における女性の役割 夢へのプロセス～3つのチャ・チャ・チャ～
第15回	7月27日	喜納 育江(国際沖縄研究所 教授)	まとめ「キャリアアップとワーク・ライフ・バランス」

数値でみる琉球大学

学部学生の男女比率(学部学生・大学院学生・教員)

本学において、学部学生の約4割が女子学生ですが、大学院学生では8.4%減の30.2%となり、大学院へ進学する女子学生が男子学生よりも少ないことがうかがえます。さらに、女性教員の比率は15.4%と低く、女子学生と女性教員の比率に大きな差があることが指摘できます。

図 本学の男女比(学部学生、大学院学生、教員)

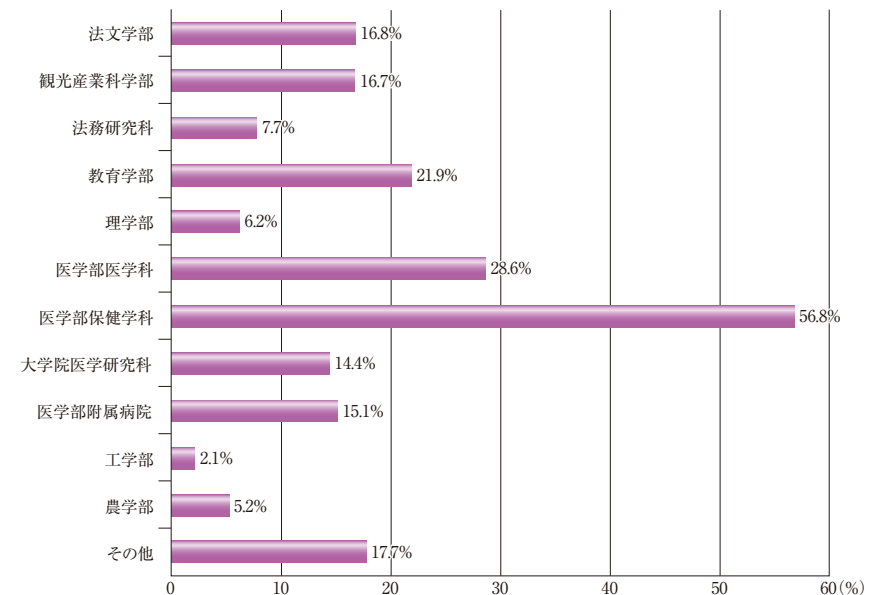


出典 平成27年度学校基本調査

部局別女性教員の在職比率

図 琉球大学の学部・研究科別女性教員の比率

平成27年5月1日現在



平成27年度学校基本調査を基に作成

サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ

琉球大学と沖縄科学技術大学院大学(OIST)の共催で、次世代を担う理系進学に関心のある女子高校生を対象に、科学に対する興味を深め、将来の進路選択の一助となるよう、研究者による講演・実験と、女子学生も交えた交流会を開催しました。

サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ ~in 宮古島~

日時: 平成27年8月20日(木)
会場: 沖縄県立宮古青少年の家



サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ ~本島編~

日時: 平成28年3月25日(金)~26日(土)
会場: 琉球大学亜熱帯フィールド科学教育研究センター
与那フィールドおよび沖縄科学技術大学院大学(OIST)



沖縄県における女性産学官コンソーシアムの構築に向けた意見交換会

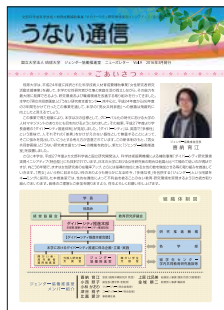
平成28年1月22日、沖縄県内の産官学でめざましい活躍をされている女性リーダーの方々による意見交換会を開催しました。

女性リーダーを育成するために必要な方策、女性の視点を活かした産学官の連携による女性の活躍を促進する取り組み、産官学の果たすべき役割や産官から大学に対する要望などについて、それぞれのお立場から意見が交わされました。

今後は地域の男女共同参画への意識啓発と地域の活性化を担う女性リーダーの育成のため、沖縄県における女性産学官コンソーシアムの構築へ繋がっていきます。



情報発信(ニューズレターの発行など)



ニューズレター「うない通信」



ホームページ